

ラナル マニア出身の元キリスト教徒

:

明:一人のル マニア人女性がイスラ ムと恋に落ちます。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ラナ

日1 May 2015

集日 11 May 2015



2006年7月30日（ヒジュラ 1427年ラジャブ月4日）、アッラ の御意により私は信仰 言を
しました。

私が真の宗教に立ち返ってムスリムになったことは、命だったと感じています。以下
は、私の改宗 です。

私の宗教的バックグラウンドについては、あまり特 すべきことはありません。私は 方
正教会のキリスト教徒として洗礼されはしたものの、ほとんど教会に足を踏み入れた
こともない上、 践らしきものもしたことがありませんでした。私が幼かった のル マニ
アでは、 しい共 主 体制の 制によって宗教がタブ となっていました。11 の に共 主 が れる
と、人々の多くは宗教に りました。しかし はその も宗教を し、国の大半も世俗主 に留
まり けました。

母が教会に出席する 会といえば、冠婚葬祭や子供の洗礼 式に限定されていました。また、教会で死者 生者のためにろうそくの火を灯す 式にも れて行かれたことがあります。どうい う か、私はろうそくが燃える いや、正教会の が全然好きになれませんでした。

私の国の一般的な正教会にはベンチがなく、 教がある に人々は祭 の近くに行こうと押し合いへし合いしていました。 教の最中には 脚が痛くなり、 教には集中できませんでした。また一般的な 教中の光景も好きになれませんでした。年配者らは噂 にふけり、いつも人々で混み合っていました。このように、キリスト教の内 からは宗教的な「呼びかけ」を感じたことはありません。

故 にいる 友の内の2人は、 践的ではなかったもののムスリムでした。ムスリムの 婚式にも何回か出席したことがあります。それは 味深い でした。英国に留学した には、クラスに世界中からの生徒がおり、その中の何人かはムスリムでした。

私はモロッコ出身者、そして2人のインドネシア出身のクラスメイトに魅了されていました。それはただ に彼らが落ち着いており、いつも しげで、 取らない性格な上、とても 味深い趣味を持っていたり、 して他の大半の生徒たちのように 酒をしたりしなかったからです。私はほとんど 酒をしたことがなく、これまで んだ回数は片手で数える程度です。

私が修士 程にいた最 の数ヶ月になり、全くの偶然によって、 に夫となる素晴らしいムスリムと出会いました。おそらくこれを んでいる人たちは皆、私がイスラ ムに改宗したのは夫との 婚のためだと思っていることでしょう。しかし反 に、私はアッラ が私を正しい道に くため、その御意によって夫を送ってくださったのだと信じています。

私の夫はイスラ ムについて、また改宗の について言及したことは一度もありませんでした。ある 、なぜイスラ ムについて さないのか ねてみたところ、彼は人が宗教を ぶのは心からそう望んだ 果であるべきで、他者による 得や 制であるべきではないからだと言いました。彼は、私が 典の民（キリスト教徒とユダヤ教徒）であり ける限りは はな

いと言いました。

キリスト教、特に正教会の教えについて全体的に不 を持っていた 期にも、私は神の存在を信じていました。私がイスラ ムに惹かれたのは、その教えが私に方向性を与えてくれたこと、そして心の中に生来 わっている何かに えかけたからです。私は 的 感情的な を抱えていた ではありません。ただ に、イスラ ムが私の人生においてこれまで欠けていたものだと感じたのです。

私はカタ ルに引っ越して以来、 地の美しいミナレットのある海岸沿いのイスラミック センタ の建 式をとても に入っていました。それは一般的なモスクだと思っていましたが、 にシャリ ア裁判所も されたイスラミック センタ であることを知りました。私はもしシャハ ダをすることになれば、その美しい建物ですのだと密かに誓っていました。そしてアッラ はその いを き入れてくれたのです。

7月30日の朝、私は思いついて に り み、イスラミック センタ でシャハ ダをすることに め ました。夫はそのことを何も知りませんでした。私がその 、そのことをサプライズとして告げ知らせると、彼は きのあまり言 を失ってしまいました。

理の家族の反 には、私も きました。夫に明かした事 は 父に わり、そして家族全体に ま りました。彼らは 喜し嬉し を流して喜んでくれました。私の肉 については、次回の 国 の に 会を て打ち明けようと思っています。

私は多くの人々が、マスメディアによるイスラ ムに しての偏向した 道に流されず、ク ルア ンを んでこのイスラ ムという美しい宗教の奥深さを理解して欲しいと っています。

アッラ の御意であれば、人々は不正な方法による金 け（それは に友情や 理的な さを 牲 にして行われます）や争いを止めて、世界に平和が れるでしょう。アッラ の御意であれば、人々は宗教的 に する内なる呼びかけに じることでしょう。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2641>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。